

日本の色● 青墨：青色が入った墨の色。文字を書く際にはあまり使われないが、水墨画などではよく使用される。

### 書の歴史

**甲骨文字**：こうこつもじ。現存する最古の漢字。約3500年前から使われていたと思われる。亀の甲羅や牛の骨を削って文字を刻んだ。

**篆書**：てんしよ。春秋戦国時代(約2500年前)の文字。やがて漢字の統一が図られ、篆書を簡略化した「小篆」が作られた。それ以前の文字は「大篆」と言う。

**隸書**：れいしよ。前漢の時代(約2200年前)に作られた文字。篆書は複雑で実用的ではなかったため、書きやすいようにと考案された。

**楷書**：かいしよ。後漢の時代(約1800年前)に生み出された。隸書を簡略化したもの。

**行書**：ぎようしよ。楷書をさらに速く書きやすくなるために考案された文字。

**草書**：そうしよ。晋の時代(約1700年前)に生まれた文字。行書ではなく隸書を崩した文字。

**明朝体**：みんちやうたい。明の時代(約600年前)に考案された文字。印刷技術の普及に伴い、印刷しやすく標準的な書体として生まれた。

130ページの色紙：「一心不乱」  
意味：1つのことに心を集中させること。心の字は漢字の基になった象形文字。心臓を表す。

右短冊：「人間万事塞翁が馬」  
意味：人間の禍福は変転して定まりがないもの。

### 楷・行・草を知る

基本となる3種類の文字、楷書、行書、草書。それぞれの文字の特徴とその使い方は、文字の生まれた歴史に深く関わっている。

人間万事塞翁が馬

人間万事塞翁が馬

人間万事塞翁が馬

#### 草書

筆画を最も崩した文字。楷書の基になった隸書から発展した崩し字のため、同じような崩し字の行書とは書き順が違うものもある。書く速さを優先し、実用性を追求した文字である。

#### 行書

楷書の画をやや崩した書体。速く書きやすくなることを目的として、楷書とほぼ同時期に生まれた。一つの文字にいくつもの形があり、書き手によって個性が生まれ、文字を生きたものにする。

#### 楷書

字画を崩さずに点画を正確にきちんと書く書き方。現在最も標準的な書き方とされている。隸書(れいしよ)。前漢の時代に作られた書体(楷書)を簡略化したもので、3世紀中頃から中国で使われた。



Taizan Yoshida

吉田泰山氏  
兵庫県出身。日本教育書道連盟師範、審査会員。東京書道教育会実務書道師範。東京書道研究院師範。書道研究「墨滴会」四段。

text by 渡辺幸裕 (案内人) + photographs by 稲垣純也

書を嗜み、ビジネスに生かす  
現代人の生活で毛筆を用いることは減多にない。それどころか、パソコンが普及してからは、手書きすることすら少なくなった。しかし、タイプライターが発達していた欧米社会でも「Thank You Letter」は手書きで送るのが礼儀である。筆を手にするのが非日常的な今、日本かぶれでは、自分の名前を筆で書くことを提案したい。「書道なんでも相談(初級編)」という本には書の基本が分かりやすく書かれている。著者である書道歴40年の吉田泰山氏に、筆を持つ際の注意点、格好よくきれいにさせる工夫などの話を伺い、右ペーシの色紙も書いていただいた。書はそもそも中国からもたらされたものであるが、仮名文字など日本独自の文字も生み出し、発展した。印刷した文字が一般的になった現代でも、筆で書いた方が喜ばれる場合が多々ある。年賀状、礼状、ギフトに添える一言、祝儀袋、そして芳名帳。それらが筆で書けたらスマートだし、丁寧に感じてもらえるだろう。

書は人なり。心を伝える手書きの文字

連載第二十回 心を落ち着け、厳かな気分を味わう

# 書を楽しむ

真の国際化とは自分の国を知ること。自らの名前だけでも筆で書ければ、コミュニケーションの幅はぐっと広がる。



やまと  
日本の心



【書籍】

『書道なんでも相談<初級編>』  
 (吉田泰山著、日本文学館)  
 『「書」を書く楽しみ』  
 (武田双雲著、光文社新書)  
 『書に通ず』  
 (石川九楊著、新潮選書)

【ウェブサイト】

書を楽しむ法  
<http://homepage2.nifty.com/tagi/>  
 楽しい書道  
<http://www.5d.biglobe.ne.jp/houzan/>  
 書道博物館  
<http://www.taitocity.net/taito/shodou/>  
 会員制有料サイト ジャパン・ナレッジ  
<http://www.japanknowledge.com/>

— 書を楽しむための装い —

藍の大島紬に白地に墨紺の  
 紋り模様帯を合わせ、  
 濃淡をつけてシックにまと  
 めた。(関 仁美さん＝読  
 者、人材サービス業勤務)



大島紬に紬地の陣羽織を  
 羽織る。今回は着物の色  
 に合わせた手提げをコー  
 ディネート。  
 (渡辺幸裕)

着物撮影協力／銀座もとじ

案内人・文 渡辺幸裕(わたなべ・ゆきひろ)  
 ビジネス・コーディネーター。1950年生まれ。前職  
 のサントリー宣伝部で、海外イベントを担当した時、  
 自国文化についての知識のなさを痛感。2001年独  
 立を機にビジネスパーソン向けに日本文化超初心者  
 の会「和・倶楽部」を提唱、運営中。会のコンセ  
 プトは「日本人に生まれたことを喜ぶたい」。

【告知】

日本かぶれの会  
 自分の名前を筆で書く会

冠婚葬祭やビジネスの場で自分の名  
 前を書く機会は数多くあります。自  
 分の名前を筆で美しく書くために、  
 吉田泰山氏に書道教室を開いていた  
 だきます。1日限りの教室ではありますが、ぜひご参加ください。

日時：7月28日(木)19:30～21:30  
 会場：東京・丸の内ビルディング 7F  
 募集人数：10人  
 参加実費：4000円  
 締め切り：7月5日(火)  
 応募方法：<http://nba.nikkeibp.co.jp/yamato19/>で必要事項をご入力ください。  
 発表：抽選のうえ、当選者に直接ご  
 連絡します。

ご応募いただいた方に、本誌の取材協力  
 者として取材や写真撮影をお願いするこ  
 とがごあります。ただし、これ以外の目的  
 で応募者の個人情報を使用することはご  
 ざいせん。

道具の種類

書道に必要な道具、硯、墨、筆、紙を「文房四宝」と言う。  
 かつてはこの4つが最も大切なものとされていた。  
 ここでは初心者向けに簡単に始められる道具を紹介する。



- ① 墨汁  
 一般的な黒墨の墨汁。墨は時間が経つと腐敗しておいがしてくるので、まずは小さめのボトルで始めよう。  
 開明「墨の華」200ml 578円
- ② 半紙  
 仮名用、漢字用と、紙にも様々な種類がある。今回は墨が比較的にじみにくい紙を選んだ。  
 「土佐半紙」630円
- ③ 筆  
 初心者にお薦めなのは、イタチの毛で作られたもの。適度な硬さがあるので、羊毛よりも書きやすい。  
 「貂毛水筆」1050円
- ④ 器  
 墨汁を入れるもの。特に決まったものはなく、自分の好みの小皿などでもよい。  
 「試し皿」132円

これらの道具はすべて鳩居堂で  
 購入できる。

「うまく」ではなく、「丁寧に」書こう

取引先や友人の前で筆でさらりと文字を書けば、それだけで一目置かれるだろう。相手が外国の方であればさらに効果的だ。それをきっかけに会話が弾むことは間違いない。芸は身を助けるというが、静かで、大きな道具も不要な書は、かなり手つ取り早い嗜みであり、ビジネスツールにもなり得るのだ。

まずは自分の名前を美しく  
 楷書・行書・草書など書体も様々だが、その使い分けも楽しみにつながるように、まずは自分の名前をそれぞれの文字で美しく書けるようになりたいものだ。そして名前とともに練習したいのが、

自分の好きな言葉であろう。気に入った言葉を選び、練習をしよう。うまく書けたら色紙や短冊に書いてプレゼントするのもよい。

スピードが要求される職場ではどうしても文字は殴り書きになる。だがプライベートの時は、丁寧に心を込めて書きたい。そして心を落ち着け、筆で書くことを心がけたいものである。

せっかくならば硯に向かい、墨をする時間さえも楽しみたいが、まずは難しく考えずに墨汁で始めるのもよいだろう。墨を筆に含ませ白い和紙に向かう。決してキーボードでは味わえない、日本人ならではの、厳かな気分を大切にしていきたい。